

道東地方におけるポプラの植栽について

問 私達は林業研究グループを組織し、研究、実践に励んでいます。クラブ員全員で改良ポプラを植栽することに成りました。改装ポプラは土地をえらび失敗が多いので困っていたところ、新聞で、アメリカクロヤマナラシ×ヨーロッパクロヤマナラシ、改良ポプラ×チョウセンヤマナラシの2種は土地条件が悪くても良く育つとの記事を見ましたがいかなものですか。試験データがありましたらお知らせ下さい。（士幌町S生）

答 1、改良ポプラは土地をえらび失敗が多い。改良ポプラの栽培にはたしかに土地をえらぶが、土地をえらぶまえに適正な品種をえらばなければならない。道東地方で適用される品種の特性として、①耐凍性が高いこと、②生産量が大きいいこと、③火山灰土壤に適すること、などがある。北海道における現地適応試験の結果やいろいろな試験結果から一応推薦品種は次のようになっている。①イタリー改良系45号種、②イタリー改良系 214号種、③イタリー改良系476号種、④ゲルリカ種、⑤プルラッヘル種、この5種のうちで道東地方で栽培条件をみたしてくれる品種は、イタリー改良系45号種、ゲルリカ種、プルラッヘル種の3種類が適当だろうと考えられる。いままで道東地方で植えられて、ほとんど失敗した改良ポプラの品種はイタリー系214号種とイタリー改良系476号種が多く、失敗した原因は幹の凍害によるものと植栽管理が不十分であったためのものと考えられる。苗木は $\frac{1}{2}$ 年生（根が2年生、地下部1年生）以上でないと生育には期待がもたれない。さしき1年生の苗木は貧弱すぎるようである。 $\frac{1}{2}$ 年になると苗長180cm以上、根元径18mm以上となって優良苗木になるようである。植栽地の地面は全面耕耘して、植穴は深さ70cm、径50cm以上の深植えとする。植栽後3年間は、中耕するか、農作物を間作した方が、土壤中に空気が入り、土地の有効利用と単位面積当りの収益を増大させることから効果がある。植栽本数は農地のままでの植付可能数は1a当り19本までとされているが、林地の場合には35本位までが適正本数のようである。このような植栽であれば失敗することは少ないだろうと思われる。道東では新得と幕別にやや良好なポプラ造林地がある。

2、アメリカクロヤマナラシ×ヨーロッパクロヤマナラシ、改良ポプラ×ドロノキ、ドロノキ改良系は王子製紙林木育種研究所で品種改良したポプラのことをさしていると考えられる。アメリカクロヤマナラシ×ヨーロッパクロヤマナラシはイタリーポプラともいわれている。ヨーロッパで古くから改良されて育成されたポプラ類はほとんどこの部類に入るものである。品種改良されたポプラに、北海道に自生しているドロノキを交配すると、北海道での適応性がより強くなるだろうと思われる。しかし問い合わせのように土地条件が悪くてもよく育つのではなく、改良ポプラは土壤水分条件が大きく影響するので、ドロノキ改良系になると比較的乾燥した山地植栽にも適するようになろう。

3、改良ポプラ×チョウセンヤマナラシ。ヤマナラシ改良系は、ドロノキ改良系よりも乾燥土壤に耐えると思われる。ドロノキ改良系は、さしきで苗木が生産されているが、ヤマナラシ改良系は、根分けで増殖する方法しかなく、さしきがきかない。したがって苗木の生産体制がすぐには間にあわないものと考え。以上の2種とも山地植栽では野兎鼠に害されやすく、普通の改良ポプラと同様に撫育管理しなければ失敗におわろう。

4、これら2種の苗木は、今のところ王子造林で増殖育成を行っており、一般には苗木の販売を行っていないようである。理由はまだ試験段階ということと、量産体制が出来ていないからだと思われる。

(造林科森田健次郎)